

1. 平成 27 年の水害被害額の概要

【被害の特徴等】

◆水害被害額は、全国で約 3,900 億円（平成 18 年～27 年の過去 10 カ年で 3 番目に大きい）

◆都道府県別の水害被害額上位 3 県は、以下のとおり。

- 1 位：茨城県（水害被害額：約 1,590 億円）
- 2 位：栃木県（水害被害額：約 660 億円）
- 3 位：宮城県（水害被害額：約 330 億円）

◆主要な水害による水害被害額及び概要

○平成 27 年台風第 18 号及び豪雨（平成 27 年 9 月関東・東北豪雨）

（水害被害額※：約 2,940 億円）

- ・平成27年台風第18号に伴う豪雨により、利根川水系鬼怒川では流下能力を上回る洪水となり、関東地方の国管理河川では昭和61年の利根川水系小貝川以来、29年ぶりに堤防が決壊した。
- ・茨城県常総市では、堤防の決壊により市域の鬼怒川より東側のエリアは市役所等を含めほぼ全域が浸水するとともに、電力、上下水道、鉄道等のライフラインが停止し、8,991 棟の浸水被害が発生した。



茨城県常総市の浸水状況

※平成27年9月6日～9月27日に生じた台風第18号及び豪雨による被害額。

○平成 27 年台風第 11 号及び豪雨（水害被害額※：約 260 億円）

- ・和歌山県では、新宮川水系熊野川のはん濫などにより、125 棟の浸水被害が発生。さらに、国道168号が冠水し、全面通行止めとなった。
- ・徳島県では、猛烈な雨の影響により、那賀川水系那賀川がはん濫し、平成26年8月台風第11号に引き続き、2年続けての浸水被害となった。沿川の阿南市、那賀町では16,902世帯（41,760人）を対象に避難勧告・指示が発令され、阿南市では65棟、那賀町では80棟の浸水被害が発生した。



徳島県阿南市では2年続けて浸水被害を受けた

※平成 27 年 7 月 15 日～23 日に生じた台風第 11 号及び豪雨による被害額。

(1) 水害被害額^{※1}

約 3,900 億円

〔内 訳〕

・ 一般資産等被害額	約 2,212 億円（構成比 57 %）
・ 公共土木施設被害額	約 1,605 億円（構成比 41 %）
・ 公益事業等被害額	約 81 億円（構成比 2 %）
計	約 3,897 億円

（参考）過去 10 力年の水害被害額

年	水害被害額	年	水害被害額
平成 18 年	約 3,450 億円	平成 23 年	約 7,290 億円 ^{※2}
平成 19 年	約 2,090 億円	平成 24 年	約 3,460 億円
平成 20 年	約 1,660 億円	平成 25 年	約 4,060 億円
平成 21 年	約 2,860 億円	平成 26 年	約 2,940 億円
平成 22 年	約 2,070 億円	平成 27 年	約 3,900 億円

※1 水害被害額には、人的損失、交通機関のストップなどによる波及被害、被災した企業の部品・製品供給機能、本社機能等が損なわれることによる他地域の企業への影響等に係るものは含まれていない。

※2 平成 23 年の水害被害額には、東日本大震災に伴う津波による被害は含まれていない。

(2) 水害被害の概要

① 被災建物棟数 約 27,000 棟

〔内訳〕	○全壊・流失	107 棟	○半壊	6,756 棟
	○床上浸水	4,672 棟	○床下浸水	15,136 棟
		計		26,671 棟

※上記の他、地下部分が浸水した建物棟数は 31 棟

② 浸水区域面積 約 27,500ha

〔内訳〕	○宅地・その他	7,677 ha	○農地	19,809 ha
		計		27,486 ha

※上記の他、地下の浸水区域面積は 0.3 ha

(3) 全国の被害

表－１ 平成27年水害被害一覧

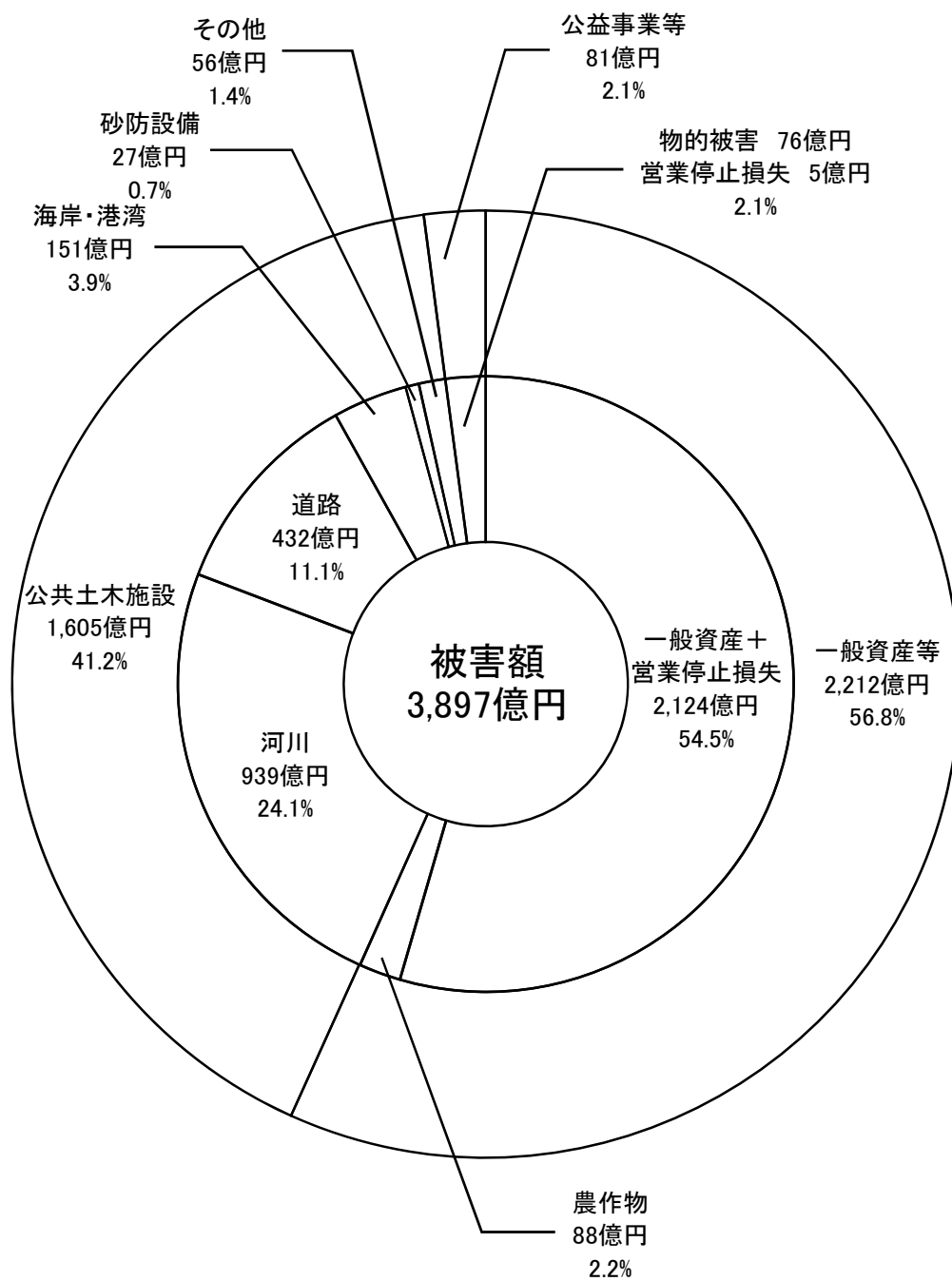
事項				単位	被害	事項			単位	被害	
死傷者数	死 者		人		8	公共土木施設被害	水系・沿岸数			742	
	行方不明		人		1		河川・海岸数			2,763	
	負 傷 者		人		58		市区町村数			778	
	計		人		67		被害額	河川		百万円	93,899
水面積区域	水系・沿岸数			145	海岸・港湾			百万円	15,071		
	河川・海岸数			382	砂防設備			百万円	2,667		
	市区町村数			348	地すべり防止施設			百万円	180		
	宅地・その他	h a	7,677	急傾斜地崩壊防止施設				百万円	244		
		農地	h a	19,809	道路			百万円	43,231		
			計	h a	27,486			橋梁		百万円	2,632
				地下	h a			0	下水道		百万円
	家屋被害	地上	全壊・流失	棟	107			公園・都市施設		百万円	1,845
半壊			棟	6,756	計			百万円	160,466		
床上浸水			棟	4,672	水系・沿岸数			73			
床下浸水			棟	15,136	河川・海岸数			112			
地上計			棟	26,671	市区町村数			158			
地下浸水		棟	31	公益事業等被害	運輸	物的被害額	百万円	2,127			
被災世帯数等	地上	全壊・流失	世帯			92	営業停止損失	百万円	375		
		床上浸水	世帯			10,050	計	百万円	2,502		
		床下浸水	世帯		14,708	通信	物的被害額	百万円	835		
		地上計	世帯		24,850		営業停止損失	百万円	102		
	地下浸水		世帯		18		計	百万円	937		
	農漁家数		戸		490	電力	物的被害額	百万円	3,279		
	所事業数	地上浸水	事業所		2,515		営業停止損失	百万円	1		
		地下浸水	事業所		10		計	百万円	3,280		
事業所従業者数		人	13,601		ガス	物的被害額	百万円	8			
被害額	一般資産	家屋	百万円			113,240	営業停止損失	百万円	0		
		家庭用品	百万円			62,171	計	百万円	8		
		農漁家資産	百万円		129	水道	物的被害額	百万円	1,321		
		事業所資産	百万円		20,423		営業停止損失	百万円	22		
		家庭応急対策費	百万円		6,627		計	百万円	1,342		
		事業所応急対策費	百万円		5,389	計	物的被害額	百万円	7,569		
		計	百万円		207,980		営業停止損失	百万円	500		
		営業停止損失			百万円		4,416	計	百万円	8,069	
	農作物		百万円	8,757							
	計		百万円	221,153							
被害額合計									百万円	389,688	

注１）死傷者数は、消防庁調べに基づき、国土交通省において水害・土砂災害を原因としない

死傷者数（例：強風による転倒等）を除いて再集計したもの。

注２）水系・沿岸数、河川・海岸数、市区町村数については延べ数である。

注３）被害額については表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計数値と計は一致しない場合がある。



図－1 平成27年水害被害額構成比

(4) 平成27年台風第18号及び豪雨(平成27年9月関東・東北豪雨)による水害被害額等

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
約 2,941 億円 (9月6日～9月27日に生じた台風第18号及び豪雨による被害額) 〔内 訳〕 一般資産等被害額 約 2,078 億円 公共土木施設被害額 約 796 億円 公益事業等被害額 約 66 億円	○死傷者数※¹ 61名(死者※² 7名 行方不明者 0名 負傷者 54名) ○被災建物棟数 24,125 棟 ○浸水面積 26,826 ha 【 気象概況 】 ・台風第18号や前線の影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となり、特に9月9日から11日にかけては、台風第18号から変わった低気圧に流れ込む南よりの風、後には台風第17号の周辺からの南東風が主体となり、湿った空気が流れ込み続けた影響で、多数の線状降水帯が次々と発生し、関東地方と東北地方では記録的な大雨となった。 ・9月7日から11日までの総雨量は、関東地方で600ミリ、東北地方で500ミリを超えたほか、9月の月降水量平年値の2倍を超える大雨となったところがあった。 ・この大雨に対し、各地の気象台では、栃木県、茨城県及び宮城県に対して大雨の特別警報を発表して最大級の警戒を呼びかけたほか、大雨や洪水の警報・注意報や気象情報等を発表して警戒を呼びかけた。

【 被害状況 】

- ・平成27年台風第18号及び豪雨(平成27年9月関東・東北豪雨)による都道府県別の水害被害額上位3県は、以下のとおり。

1位：茨城県(約1,592億円)
2位：栃木県(約 654億円)
3位：宮城県(約 322億円)

- ・平成27年台風第18号に伴う豪雨により、利根川水系鬼怒川では流下能力を上回る洪水となり、関東地方の国管理河川では昭和61年の利根川水系小貝川以来、29年ぶりに堤防が決壊した。
- ・茨城県常総市では、堤防の決壊により市域の鬼怒川より東側のエリアは市役所等を含めほぼ全域が浸水するとともに、電力、上下水道、鉄道等のライフラインが停止し、8,991棟の浸水被害が発生した。
- ・栃木県日光市芹沢地区では、地区内の8溪流9箇所において同時多発的に土石流が発生し、唯一の避難経路である市道芹沢線が寸断され、住民14戸25人が一時孤立した。
- ・宮城県では、鳴瀬川水系渋井川の堤防が決壊するなど河川はん濫により、2,765戸で断水、高速道路、国道、県道、政令市道あわせて16区間が通行止めとなったほか、2,133棟の浸水被害が発生した。



茨城県常総市役所の浸水被害



栃木県日光市の土砂災害

※1 死傷者数は、消防庁調べに基づき、国土交通省において水害・土砂災害を原因としない死傷者(例：強風による転倒等)を除いて再集計したもの。

※2 死者数については、上記の他6名の災害関連死がある。

(5) 平成 27 年台風第 11 号及び豪雨による水害被害額等

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
約 261 億円 (7月15日～23日に生じた台風第11号及び豪雨による被害額。) 〔内 訳〕 一般資産等被害額 約 38 億円 公共土木施設被害額 約 219 億円 公益事業等被害額 約 5 億円	○死傷者数※ 3 名 (死者 1 名 行方不明者 0 名 負傷者 2 名) ○被災建物棟数 596 棟 ○浸水面積 322 ha 【 気 象 概 況 】 ・ 台風第11号は、7月14日から16日にかけて、日本の南海上を北上し、7月16日23時頃高知県室戸市付近に上陸した。その後、17日06時頃に岡山県倉敷市付近に再び上陸し、17日21時に日本海で熱帯低気圧に変わった。 ・ この台風や台風に向かって流れ込む湿った空気の影響で、7月15日から18日にかけての総降水量は、近畿地方の多いところで700ミリ、四国地方の多いところで600ミリを超えたほか、近畿地方の10地点で、日降水量が統計開始以来の1位の値を更新するなど、西日本や東日本の各地で記録的な大雨となった。
【 被害状況 】 ・ 平成27年台風第11号及び豪雨による都道府県別の水害被害額上位3県は、以下のとおり。 1位：和歌山県 (約74億円) 2位：徳島県 (約35億円) 3位：兵庫県 (約30億円) ・ 和歌山県では、新宮川水系熊野川のはん濫などにより、125棟の浸水被害が発生。さらに、国道168号が冠水し、全面通行止めとなった。 ・ 徳島県では、猛烈な雨の影響により、那賀川水系那賀川がはん濫し、平成26年8月台風第11号に引き続き、2年続けての浸水被害となった。沿川の阿南市、那賀町では16,902世帯(41,760人)を対象に避難勧告・指示が発令され、阿南市では65棟、那賀町では80棟の浸水被害が発生した。 ・ 四国地方では、高速道路2路線2箇所、直轄道路4路線7箇所をはじめ、多数の箇所が通行止めなどになった。	
 新宮川水系熊野川のはん濫  徳島県阿南市では 2 年続けて浸水被害を受けた	

※ 死傷者数は、消防庁調べに基づき、国土交通省において水害・土砂災害を原因としない死傷者(例：強風による転倒等)を除いて再集計したもの。